

教宣 せぶん

東日本大震災 福島原発事故

隠された事実 偏った報道

東日本大震災の被害実態が日を追うごとに明らかになっていきます。震災から1週間を経過した現在でも、いまだ被害の全容がつかめていないこの事実こそが、今回の震災の甚大さをあらわしています。被害に遭われた皆様方に謹んでお見舞い申し上げますとともに、全損保方針に則り、できる限りの支援をおこなうこと、いまできることを実行していくこと、損害保険会社に籍を置く者としてその社会的使命を果たしていくことを実践していきます。

今回の災害で、いま世界中が懸念している問題があります。それは福島原発事故です。対応次第では日本中が放射能に汚染されるかもしれない危険をはらむ大問題です。当初から原子力発電所の危険性については多くの方が指摘し、原子力発電に頼らない電力行政を訴えていました。昨年の争議解決後に、お世話になった「名古屋・栄総行動」に行った際、たまたま加わった要請団が、浜岡原発をはじめとした原子力発電所の危険性を訴え、原子力発電をただちに停止するよう中部電力に要請するグループでした。こうした体験をしたこともあり、今回の福島原発事故の被害状況をめぐる政府の対応やメディアの報道に大きな疑問を持ちます。

官房長官がおこなう政府の記者会見には「原子力発電は安全だ」という方針が一貫してつらぬかれているように感じます。また、それを受けてどのテレビ局が伝える報道も、原子力発電を推進してきた学者をコメンテーターに据え、政府の「大丈夫だ」という報道を後押しするようなコメントを発しています。しかし、「安全だ」「事故は起きない」と言い続けてきた原発に事故が起きたいま、私たち国民が耳にしなければならない情報やコメントは、「原発は安全だ」と言ってきた学者の話ではなく、「原発は危険だ」「事故は起こる」と言い続けてきた立場の方の分析や話しなのではないでしょうか。

私たちは過去に、企業利益のために、国民の「命」や「安全」が犠牲にされた事件を数多く目にしてきました。そこには必ずと言っていいほど、政・官・業の癒着構造が横たわっていました。今回の福島原発事故の一連の対応を見たとき、この癒着構造にメディアも

絡んで、事実を国民の前に明かさないとこの思惑を感じてなりません。

昨日(3月18日) 経済産業省原子力安全・保安院は、福島原発事故を、外国から「レベル6」の事故と位置づけられたことに押されるようなかたちで、「レベル4」とした事故を「レベル5」に位置づけ直しました。また、現場付近の病院で、放射能防護服に身を包んだ係員に、幼い子供たちが放射線の数値を測定されている写真がニューヨークタイムスに掲載されました。この病院で救助を待っていた方から高い放射線数値が測定され隔離されている写真もネットには公開されています。この他にも、今回の原発事故で、当事者である私たち日本人が知らないようなショッキングな出来事や情報を、海外メディアが世界に発信し、その情報が逆輸入するかたちで私たちが目にするという現象も起こっています。諸外国が発する情報によって、日本政府も正確な情報や事実を開示せざるを得ないような状況になってきているように感じます。こうした状況を見ると、日本政府の、そして日本のメディアの対応が、国民の安全に向いていないような気がしてなりません。

組織分裂が起こった際、私たちには「全損保に残っては雇用や処遇を守れない」とする体制側の情報が優先して入ってきました。しかし、全損保に残ったばかりの私たちは多かれ少なかれ「全損保に残らなければ雇用や処遇は守れない」という情報も手に入れ、それらの情報を自分なりに分析し、最後は自分の意志で進路を決めてきました。

不幸にもこのような大災害が起き、日本はおろか近隣諸国にも大きな影響を及ぼしかねないような放射能汚染の危機が迫る中、一方向の情報に頼り、今後の進むべき道を考えるのはとても危険なことだと思います。

「原子力発電は危ない」「ただちに停止せよ」と訴え続けてきたエンジニアの広瀬隆さんが3月17日にケーブルテレビに出演した模様がユーチューブにアップされています。(下にアクセスコードを記しました。クリックすれば見ることができます。3部構成になっています。) 原発に関し、一番現場を知り、企業利益とも無縁で、信用のおける方のコメントです。ぜひご覧になって欲しいと思います。

[ニュースの深層 3/17\(木\)「福島原発事故」メディア](#)

<http://www.youtube.com/user/chorochannel#p/u/1/wIV..>

いま福島原発では、事故を起こした原子炉をメルトダウンさせないように、おそらく死を覚悟して冷却作業や冷却装置の復旧工事にあたっている東電の社員、下請けの作業員の方、設計技術者、自衛隊員の方、警察の方、消防の方などがいらっしやいます。外国メディアは彼らを「50人の英雄」と紹介しています。私たち日本人の将来と運命は、いま彼らが握っていると言っても過言ではありません。私たちは、作業が成功に終わるよう、祈ることしかできません。